

シンポジウム「これからの日本の学協会のあり方」

日 時:平成19年3月16日(金)13:30～16:30

場 所:日本学術会議6C(1)～(3)会議室(6階)

主 催:日本学術会議科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会

## 1 講演「科学技術の振興と学協会について」

---

講演者:永野 博(独立行政法人科学技術振興機構理事)

- ・ 科学技術振興機構の前身は日本科学技術情報センターと新技術開発事業団である。科学技術の振興のための多様な活動を実施している。
- ・ 学協会、日本学術会議と連携、関連した取り組みとしては以下がある。

### 1-1「研究成果の普及・展開広報活動等」

---

- ・ 科学技術に関する総合的なポータルとして、「サイエンスポータル(日本語)」、「Science Links Japan(英語)」を開設している。日本学術会議ホームページの各学会一覧にもリンクしている。(学会一覧についてはできれば英語版を開設してほしい。)
- ・ イノベーション創出のための「産学共同シーズイノベーション化事業」の中で、学会との連携をしている。

### 1-2「科学技術情報の流通促進」

---

- ・ 「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」で学協会の論文誌等の電子ジャーナル化を支援、432学会の参加、485学会誌の公開を行っている。海外からのアクセスが6割を占め、電子ジャーナル化、国際化の推進に一定の役割を果たしていると自負している。過去の学術雑誌の電子アーカイブ化も進めている。
- ・ 「技術者の継続的能力開発のためのコンテンツ開発・提供」として、複数の学会の協力を得て、インターネット自習教材の開発を行っている。
- ・ 「研究開発支援総合ディレクトリ(ReaD)」における研究者情報、研究機関情報のデータベース化も進めている。

### 1-3「科学技術理解増進」

---

- ・ 青少年の科学技術理解増進のための「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」、「国際科学コンテスト支援事業」等の取り組みを進めている。
- ・ 一般向けの「サイエンスカフェの開催」、サイエンスコミュニケーションの関係者向けの「サイエンスアゴラ」等の取り組みを進めている。
- ・ 上記のような取り組みに当たって、日本学術会議や学協会との連携機会が多い。
- ・ 今後も科学振興のために、日本学術会議、各学協会との連携を拡大していきたい。